

検討テーマ：「子どもの健全育成と高齢者が安心できる地域づくりについて」

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
子どもの見守り	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの遊ぶ場所がない。 ○子どもはいるが、子ども会に入る家庭が少なくなり、会長も苦勞している。 ○子ども会の会員が減っている。このままでは自然消滅する状況。共働きの家庭が多く、役員になると負担が大きいのので、加入しない。 ○若い親の関心がない。塾、少年団活動などがあるので子ども会は必要ないという意見もある。 ○中学生に関しては悪いことをしないように見守りが必要。注意をしても普段から知っている子と知らない子ではお互い対応が違う。普段からの声かけを大事にして欲しい。 ○スクールガードのメンバーが固定されてきているが、その人が事情で見守り活動ができなかった場合不安。登下校時の見守りをシステム化できるといいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの健全育成は挨拶から始まる。 ○防災訓練を通じて子どもの参加を増やしたい。防災訓練が子どもの健全育成につながればいいと思う。 ○今夏体育部と相談し、ラジオ体操に町内の人も参加する提案をしている。まず知り合いになることが第一歩。 ○知らない人は不審者と思えということをお知らせしなければいけなくなった。ぜひ知っている人になって欲しい。
高齢者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○錦田小区は高齢化率30%以上 ○要援護者をどうやって助けるか考えたい。 ○高齢者は12~13人いるが把握していない。災害時の対応も特に話し合っていない。 ○老人会は昨年解散してしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○老人会では幼稚園と交流し、一日でも長生きして、元気をもたらす活動を行っている。 ○敬老祝い金を配るとき高齢者の把握ができるので良い。
地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○約100世帯が町内会に加入しているが、<u>その他アパート3棟の約30世帯が町内会に未加入のため対策が必要である。</u> ○町内会に入っていない方の把握ができず、災害時に対応できない。 ○民生委員が今年で任期が切れる。毎年自治会だけで民生委員、環境美化委員など推薦するのは難しい。次の方を探すことが非常に大変。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会に入らないと災害時に面倒を見ないという内容に規約の改定を検討。 ○錦田中学区には「豊かな心を育てる会」がある。多くの方に参加いただき、子どもの健全育成から波及する様々な地域の問題を討論して、解決するような会にしたい。

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
子どもの見守り・あいさつの輪を広げる	<ul style="list-style-type: none"> ■ あいさつは心や体の健康と通じていることを小学校などで教えることが大事。 ■ あいさつはコミュニケーションのひとつ。長く続けることで子ども達の表情や返答から調子がわかるようになる。 ■ 言われたからではなく、自然にあいさつできることが大事。 ■ 学校でのあいさつの教育も大事だが、やはり中心は家庭。学校と地域はその補完的な役割を担っていると認識している。 ■ あいさつできない子どもがいるが、本来恥ずかしいこと。教育ではなくしつけ。親が子ども達のあいさつの状態を知る機会を作り、親に理解してもらいたい。 ■ みんなが元気よくあいさつをする町の文化、風土、またはそういった地域づくりが進めば、改善、向上する。 ■ 声をかけて返事をしない子は駄目となると、やっている我々自身、またその子も辛くなってしまう。いつかどこかであいさつを思い出してくれれば良いという気持ちでいる。それほど悲観していない。 ■ 地域の人顔と名前が一致して、あいさつが自然と交わせる関係づくりができる方法やアイデアが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 錦田小学校では、各クラスあいさつチャンピオンを出し、全校でたたえる活動をしている。スクールガードの写真を名前入りで掲示しているので、名前と顔がわかり安心して子ども達もあいさつできる。 ■ 錦田中学校では今年から「あさげ運動」(あいさつ・さわやかに・元気にキャンペーン)を展開。いいあいさつができた子にはポイントをあげ表彰し、啓発している。 ■ あいさつのテクニックとして、低学年には大声で、高学年の子には丁寧に、中学生には続ける中で自然とやり方がわかってくる。考えながらあいさつするといいい。 ■ 場面に応じた言葉を気楽にかけていけば、2回目は返事があつたりと変化がある。 ■ その場にあわせた言葉がけをしていく。 ■ こちらからなるべく声をかけるようにすれば、子どもの方から声をかけてくれる。 ■ 子どもに「気にかけているよ」という意味の愛情表現のあいさつ・声かけをしていく。 ■ 今年から錦田中ではサポーターズクラブ(PTAとは別組織)が活動開始。学校行事の松並木清掃に参加、バザーでは子ども達が遊べるイベントを企画するなど子ども達と交流をはかっている。ふれあいを通じながら、子ども達と面識を持つ(顔と名前がわかる)よう心掛けている。 ■ 他地区では、お年寄りのウォーキング(健康づくり)兼、あいさつ運動を実施。歩いた距離をポイント制にし、ゲーム感覚で楽しみながら、子どもと接する機会を設けている。

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
高齢者の支援	<p>■民生委員として、町内会の総会には必ず顔を出し、必要があれば話をさせてもらうようにしている。町内会長には、一人暮らしの高齢者調査への同行（情報の共有）と、また要援護者リストの情報の伝達を行ってほしい。</p> <p>■昨年、敬老会に15名参加して喜んでもらった。公民館で座談会でもやろうと話が発展したが、うまく芽を出すよう引っ張ってくれる人がいると良い。</p> <p>■高齢者の支援に関しては、それぞれの地域の事例を共有し、参考にしたり、真似してみると発展がある。</p>	<p>■桜ヶ丘の老人会では輪投げ大会や古新聞の収益で温泉に行くなど、活発に活動している。</p> <p>●若松町のコミュニティカフェでは70代の方が活躍。また、補助事業費が出るので活用してほしい。押切町内会の活動が参考になると思う。</p>
地域の連携	<p>■御門自治会では、自主防災会の中に消防隊がある。阪神淡路大震災後、町内で地元で密着した組織をとということで、町内役員経験者と自主的に集まった人が中心となった組織。8月に保育園、幼稚園に協力してもらい、防災用タンクから放水訓練を実施。小・中・高校生も参加した。</p>	<p>■緑ヶ丘自治会では、従来ボランティア30数名が自主防災会として訓練を行ってきた。今後、全戸を自主防災会に登録する。登録用紙には1人暮らしや、要介護・要救助の有無も必ず記入し提出してもらおう。全体を掌握後、隣組による救助などについて順次考えていきたい。アパート3棟約30世帯が未加入だが、この資料を提出しない場合は、緊急時支援できない事をはっきりさせる。</p>